

あづか



第4回定例会

決まったこと	30年度補正予算	>>> P.2
	主な質疑・条例改正	>>> P.3
一般質問	4人が町政を問う	>>> P.4
委員会報告	総務厚生・産業他	>>> P.9
管外視察報告	議員研修	>>> P.11
まちの元気	和束茶手揉技術保存会	>>> P.12

消防団初出式 放水訓練

平成30年度 補正予算 国の交付金減額により道路拡幅工事遅れる 災害復旧工事は増額

第4回定例議会は、12月12日から20日までの9日間開会されました。町長提出の平成30年度補正予算や条例の一部改正、固定資産評価審査委員の選任などが審議され、採決の結果、議案はすべて可決・同意されました。

一般会計補正予算（第4号）
4400万円を減額し
総額32億7970万円に

今回の補正予算は、国の交付金が大幅な減額になったことにより道路拡幅工事などに使う予算が1億1400万円のマイナスになりました。一方、昨年7月の西日本豪雨被害などによる災害復旧工事には4600万円が追加されました。

主返納に伴う路線バスICカード乗車券の増額、農業者等復興支援事業として災害で被災された宇治茶生産施設への助成、墓地整備事業補助金（白栖区）、簡易児童遊園遊具撤去工事費（石寺地内）などにおいて予算が盛り込まれました。

【補正予算の主な事業】

- 木造住宅耐震改修事業補助金 60万円
- 京都府議会議員選挙費 241万円
- 障害者自立支援扶助費 614万円
- 簡易水道事業特別会計繰出金 460万円
- 下水道事業特別会計繰出金 101万円
- 道路新設改良費 △1億1400万円
- 農業用施設・道路橋りょう・河川災害復旧工事費用 4600万円

特別会計補正予算

- ・国民健康保険特別会計補正予算（第2号）（事業勘定） 保険給付費及び平成29年度国庫負担金返還金等に3481万円を追加。（直診勘定） 診療所施設給水管の引き直し工事に280万円を追加。
- ・簡易水道事業特別会計補正予算（第1号） 統合簡易水道整備工事や町道山口線拡幅改良工事に伴う水道管布設替工事に800万円を追加。
- ・下水道事業特別会計補正予算（第1号） 管渠管理費としてマンホールポンプ修繕等に301万円を追加。
- ・介護保険特別会計補正予算（第1号） 事業勘定の居宅介護サービス給付費や高額介護サービス費等に320万円を追加。



被災現場（釜塚地内）

補正予算関連 主な質疑

問 自衛隊への個人情報提供について、義務なのか、違法ではないのか。

答 国・府からの要請であり、法定事務として判断した。町が加盟している城南戸籍協議会とも充分協議している。

問 免許証返納対策としてICカード50000円分以上に、もつと踏み込んだ対策はできないか。

答 前向きに検討したい。

問 本年4月から、クリーンセンター契約終了後のごみ出しについて変更点は、また粗大ゴミを有料化するのか。

答 カレンダーにもとづいて収集を行うので、基本は

今までと変わらない。また粗大ゴミについては、一般収集業務の中では無料ですが、個人や業者が直接持ち込む場合は有料です。従来どおりです。

問 保育所の時間延長の意向は。

答 実施できるよう準備中です。

問 ホームヘルパーの利用制限について問う。

答 昨年の法改正で、1ヶ月の上限が設けられたが、ケア会議などで、要介護者の状況を見て、継続が適正かを判断している。

問 ブロック塀の緊急安全対策支援事業とは。

答 個人が危険なブロック塀だと判断して改修を要望すれば、審査の上、1件15万円まで補助する制度です。

問 運動公園の整備を問う。

答 子育ての設備として、親子のふれあいの場として重要だ。必要な整備は進めていく。

問 府道木津信楽線井平尾拡張工事の進行が遅すぎるが。

答 国の交付金事業であつて、災害等の関係でなかなか予算がつかない。少しでも早くできるよう強く要望している。

問 水道事業の広域化と公営企業化について問う。

答 東部3町村での物品購入や一般管理的な事は、広域化を検討中だが、公営企業化にするのは難しい。

問 和東町職員の給与に関する条例

○特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例
平成30年12月期末手当支給率を0.05月分引き上げなど

○和東町職員の給与に関する条例
平成30年12月勤勉手当支給率を0.05月分引き上げ、給料月額を平均0.2%引き上げなど

条例改正等

○特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例
平成30年12月期末手当支給率を0.05月分引き上げなど

○和東町職員の給与に関する条例
平成30年12月勤勉手当支給率を0.05月分引き上げ、給料月額を平均0.2%引き上げなど

人事案件

固定資産評価審査委員
任期満了に伴う固定資産評価審査委員に新しく次の方を選任。
松田義彦氏（白栖）
和田嘉昭氏（別所）

意見書

第4回定例会（12月）に次のとおり意見書が提出されました。

○学童保育の国基準の堅持を求める意見書

否決

提案者 岡本正意 議員
賛成者 2人
反対者 7人

一般質問

町政を問う！ 提案する！

12月12日に行った一般質問には、4人の議員が質問に立ち、町長等に対して様々な課題についてたどしました。各議員の質問項目を紹介します。

① 竹内きみ代議員（5ページ）

1. 新年度予算と我がまちの取り組みについて
2. 食育・地産地消の推進について

② 村山一彦議員（6ページ）

1. ふるさと納税について
2. まちづくりについて
3. 住民死去の際、防災無線により和東町全域に情報提供望むもの

③ 藤井清隆議員（7ページ）

1. 再生可能エネルギー推進への手立ては
2. 真に医療費削減につながるものは何か
～肉体の延命よりも納得のいく死を～

④ 岡本 正意 議員（8ページ）

1. 消費税増税に対する町長の姿勢を問う
2. 水道料金値上げ方針について
3. 公共交通の充実を
4. 「景観条例」制定の動きについて

一般質問は、町の行財政全般にわたる議員主導による政策論議です。

質問時間は答弁を含め1時間以内で、時間内に何度でも質問できます。記事は質問順で、内容は本人から提出された要約原稿です。

詳細は、後日ホームページに掲載する議事録でご確認ください。



問

若者の定住として
三世代同居に対する施策を

答

住民の皆さんと
協働して取組みたい

問

三世代同居・近居の支援策として住宅に対する補助制度を。

答 町長

定住対策を積極的に進める方向性は大事だと思ってる。他町村でも、それぞれの施策を講じている。決めかねている状況にあり、もう少し検討したい。

問

三世代同居・近居の支援策として新築住宅に対する減額措置として3年間、全額固定資産税の減免を。

答 町長

本町の財政状況、背丈に合った考え方を、もう少し深く検討したい。

問

トンネルが完成した時、若者に住んでもらう条件として補助制度が適しているのではないか。

答 町長

若い人が活躍でき、住みやすいと感じてもらえるまちづくりを考えていく。

問

子育てにやさしいまちをもっと掲げては。

答 町長

実現している子育て施策について、しっかりアピールしていきたい。

新年度予算について

問

新年度予算の編成にあたり、最優先施策は何か。

答 町長

補助金行政から交付金行政へと変化している。国の施策を積極的に受け入れていく。

問

食育、地産地消の推進について

答 福祉課長

乳幼児や保護者に対する食育指導、保育園での地産地消の活用状況は。

未就園児の給食体験や栄養士の講義など家庭との連携の中で食育指導を行ってきた。また、保育園では地元産の米、月30kgの使用を50kgまで伸ばしたい。

問

学校給食での地産地消の状況は。

答 農村振興課長

地元産の米、野菜を使用した給食日を1学期に3回開催している。

問

直売所と地元農産物の販売や利用促進の状況は。

答 農村振興課長

ホームページや広報誌で直売所の紹介をしている。

問

教育観光での地元食材の提供や和東荘での地産地消の利用促進は。

答 副町長

農泊では地元食材の確保に努めた。和東荘では4軒の農家から購入、今後も地産地消に努めたい。

問

郷土料理・伝統料理を発掘し、次世代へ引

き継ぐことが大事ではないか。

答 町長

星野リゾート参入に対し食文化をどう提供できるかが課題であり、郷土料理の掘り起こしを住民と協働して取り組むことが大事と考える。

問

食文化、郷土食を残すには予算も必要では。

答 町長

今後、十分その方向で検討させていただく。



三世代同居

問
ふるさと納税受入れに際し
使金用途を明確化しては

答
4月の地方税法の改正を
踏まえ検討していきたい



村山 一彦 議員

平成29年10月から平成30年9月までの統計資料によると自然動態（出生と死亡の対比）マイナス50人。社会動態（転入と転出の対比）マイナス50人となっている。やはり若い世代が町内で活躍でき、生活を営めるような対策が必要と考える。

問
防災無線の活用

住民死亡の際、防災無線により和東町全域に情報提供出来ないか（承諾得られたいのみ）。

答 町長

町が広く周知する内容とは考えていない。これまでの和東音声告知放送と同じ利用方法で運営していく事が基本と考えている。

答 総務課長

近隣では南山城村が実施しているが、村の一定の風土でもあり、和東町は現在のところ考えていない。

問
過去3年間のふるさと納税の受入額は。

答 総務課長

平成27年度65件100万円、平成28年度60件、98万円、平成29年度40件、66万7000円。

ふるさと納税された事による税収の減少はいかほどか。

答 税住民課長

他の自治体にふるさと納税された方は26人、211万8000円で町民税の控除額が85万3000円でこれが減収となります。

問
今まで受入れたふるさと納税額はどのように活用したか。

答 総務課長

平成20年度からの合計額は531万8000円で、全額基金として保有している。

問
和東町のふるさと納税（寄附金）の資金使途が抽象的である。明確化を図るべきと考えるが。

答 町長

ふるさと納税制度の見直しに係る地方税法の改正が4月に施行予定である。その改正の内容を踏まえながら検討を進めていきたい。



ふるさと納税返礼品(和東荘宿泊券)

問
まちづくり

答 総務課長

和東町人口ビジョンでは、2020年定住人口4000人となっているが既に4000人を割っている。その原因は、対策は。

問
第2定住人口はどのようになっているか。

答 総務課長

平成29年度の援農者は延べ48人、大学や就職での対象者が約200人と見込んでいる。

問
神上住宅の町営住宅跡地の活用方法は。

答 町長

和東町の玄関口の1つとして整備が不可欠。周辺土地の活用も注視しながら、有効な土地利用ができるよう整備したい。



町営住宅跡地(釜塚神上)の活用方法は

問

再生可能エネルギー
推進の考えは

答

国の動向を
見ながら考えていく

問

小規模水力発電導入の考
えは。

答

建設事業課長
水道施設での発電につい
ても、また、集落での発電
についても、水量の問題で
難しい。

問

木質バイオ発電はどうか。

答

農村振興課長
バイオマス材料の安定的
供給や建設場所の確保など
課題も多い。

問

地域で、薪を利用しての
ボイラー給湯や導管による
温熱利用は考えられるか。

答

農村振興課長
循環型社会のそういう動
きは聞いているが、本町で
の動きはない。

問

太陽光発電の可能性は。

答

農村振興課長
景観上や防災上の観点か
ら積極的に取り組めるもの
ではないが、事業ごとに慎
重に協議したい。

問

医療費削減に向けて

医者や薬に頼らない自然
治癒力を基礎に据えた自己
診断による医学的知識の普
及を図る取り組みは可能
か。医療費削減につながる
と考えるが。

答

町長
客観的データに基づく制
度設計が難しい提案であ
る。むしろ福祉健康行政を
推進する事で、費用抑制に
つなげたい。事例として挙
げたいのは、緑泉コースで
ウォーキングしながら免疫
力を高めようという進めてい
る。

問

現在の国民健康保険税に
ついて、所得による格差に
加え、利用の程度に応じて
保険料を増加させる仕組み
はどうか。

答

税住民課長
国民健康保険税について
は、地方税法上、市町村で
課すことのできるの、所
得割、均等割などを含む、
3つの方式のいずれかと決
められており、その他の方
法の余地はないと考えられ
る。しかし、医療費の抑制
は重要であり、健診やドッ
クなどの保健事業を充実さ
せ、保険者努力支援制度で
の加点をめざすべきと考え
ます。

問

高齢者の日常に、尊厳あ
る死への準備を取り入れる
試みについての考えは。

答

福祉課長
相楽市町村と相楽医師会

問

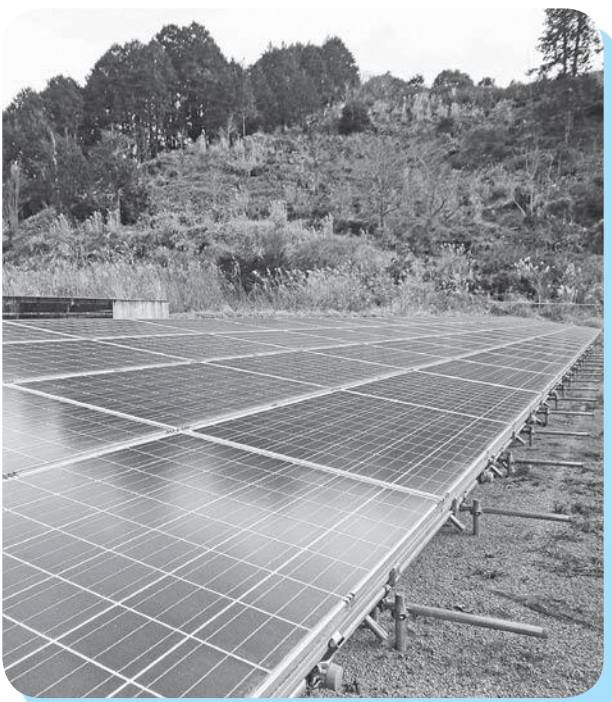
尊厳ある死につながるよ
う過度の延命治療は避ける
べきではないか。

答

町長
元気なうちに、家族で終
活について話し合いをする
のはいいが、延命治療の存
廃を制度化するのは難し
い。



藤井 清隆 議員



太陽光発電(園地内)

問
水道料金値上げ方針に
変更はないのか

答
現時点では
値上げの方向で進める



岡本 正意 議員

観光用に購入したゴルフカート等の活用も一部検討している。

早急に検討したい。

問
鉄道料金も含めた補助拡充を。

答 町長
今のところ考えていない。

問
景観条例：十分な議論を

答 町長
住民的議論は不十分。全行政区での説明会やアンケート実施を。

問
平成27年の景観計画策定から4年議論してきた。地域での勉強会も開き意見を聞いてきた。意見公募も約1ヶ月半の期間を設けた。

答 町長
具体的には災害復旧や耕作放棄地対策、農道整備等を考えている。後継者対策は景観保全と直接結びつかないので条例以外で検討したい。

問
バス路線再編の検討は進んでいるのか。

答 町長
原山―湯船間の再編を検討したが補助制度がなく、今のところ現状維持。

問
高校生バス定期代補助制度の拡充を。

答 町長
前向きに進めているが改正時期は検討が必要。

問
来年度当初からの改善へ努力を。

答 町長
努力を。

問
10月からの増税に反対し中止要請を。

答 町長
賛成か反対かの表明は控えたい。

問
増税の影響は深刻であり明確に中止を要請すべき。

答 町長
国会で議論されている内容であるが、府とも連携を取りながら声を上げていきたい。

問
公共交通の充実を

答 町長
コミュニケーションバスの検討状況は。

問
25%値上げ方針は撤回を。

答 町長
経営を維持するために負担をお願いしたい。

問
消費増税に反対を

答 町長
まだ不確定な要素もあり、「二つの基本」として進めていきたい。

問
政府の増税方針への考えは。

答 町長
社会保障への財源確保は必要だが、低所得者や中小企業への配慮も必要。

問
建設事業課長
独立採算制が原則のため、基準を超える繰入れは困難。

問
一般会計からの繰入れ、国や府に真剣に支援要請を。

答 町長
以前、25%値上げは決まっていなかった。その後、再検討はしたのか。

問
増税の場合の住民生活や地域経済への影響は。

答 町長
引上げは全国民に影響が及ぶことであり、国全体の対策が必要だ。

問
総務課長

答 町長

問
総務課長

答 町長

総務厚生常任委員会

交付金を活用した中で
攻めのまちづくりを

委員長 竹内きみ代

本委員会は、11月30日に平成30年度事業の進捗状況を中心に事務調査を行いました。

総務課

○茶源郷まつりでは2日間で約1万2000人を迎えて大盛況であった。

○6月から新たに開始したふるさと納税のクレジット決済額は14万5000円であった。

○運転免許証自主返納支援事業では12人の方から返納があった。

地域力推進課

○移住者の増加を図るため、空き家改修の補助金を活用し湯船地域にヴェレッジハウスを完成させ、利用者を募集している。

○教育観光では、埼玉県の高校生297名の農泊を受入れ、30年度は全体で

1371名を受け入れる予定である。

○運動公園から石寺の景観資産までの主な電柱に観光客を誘導するための看板を設置した。

税住民課 福祉課

○一般会計、国民健康保険・介護保険特別会計ともに例年通りの進捗であった。人間ドッグに140名の申請があり、特定検診・個別検診では332名が受診された。

委員からの意見や質問

問 東部じんかい処理組合焼却場の今後の方向性は。

答 来年3月で耐用年数の20年になることから地元との協定書に従う。今後は民間施設にお願いする。

問 府道での観光バス停車の改善は。

答 「長時間止めないでください」等の表示を検討している。

問 茶源郷まつりでの会場の備品設置や予算配分は。

答 来年度はもう少し予算計上が必要と考えている。

問 地域おこし協力隊の任期が来年3月で切れるがその後の検討は。

答 観光や特産品づくりに取組んでいる。3名全員残ることを希望している。

問 障害者ヘルプマークをもっと広く啓発し必要としている人に周知すべきでは。

答 府から届いているので啓発・啓蒙する。

問 相楽東部未来づくりセンターでのシルバー人材センター設置についての進捗は。

答 法人化するには約1000人の会員がなければ補助対象にはならないので大変厳しい。

問 全国的に風疹が流行しているが、ワクチン補助の現状は。

答 本町では、抗体検査は無料、接種費用は一人1回費用の3分の2を補助している。

一部事務組合議会報告

相楽郡広域事務組合議会

11月19日に第2回定例会が開催された。木村代表理事から大谷処理場基幹的設備改良事業に向けて、請負業者の選定を31年3月までに実施する。

相楽消費生活センターでの30年度上半期の相談件数は279件、相楽休日応急診療所では30年度上半期の受診者数は、304人となった。

公平委員会委員に和東町の森脇美隆氏と木津川市の藤木美能里氏が選任され同意された。29年度一般会計決算認定について、賛成者全員で認定された。29年度相楽郡ふるさと市町村圏振興事業特別会計決算認定について、一般廃棄物処理施設に係る生活環境影響調査の縦覧等の手続に関する条例の制定について、30年度一般会計補正予算、京都市市町村職員退職手当組合規約の変更について、いずれも賛成者全員で認定、可決された。

相楽中部消防組合議会

第2回定例会が11月19日に開催された。最初に河井管理者から、本部庁舎建設候補地の選定について、奈良市北消防署本部のはしごつき消防自動車を共同利用、共同整備すること、職員採用計画、昨今の地震や豪雨による災害状況及び減災防災への取組について報告があった。29年度決算認定は全員賛成で可決、30年度補正予算も全員賛成で可決された。京都市市町村職員退職手当組合規約一部改正の件も全員賛成で可決された。

産業常任委員会

景観条例の制定で 産業振興をどう図るか

委員長 吉田哲也

12月3日に開催した委員会では、堀町長から、まちづくりの一環として、生業景観に力点を置いた景観条例の制定を予定している。併せて産業振興をどう図っていくのか、お茶のまち基幹産業を強く進めていく根拠になり、アピールしていきたいと挨拶がありました。

農村振興課からは、運動公園駐車場等周辺整備が昨年度からの繰越事業分は既に9月30日で完成している。本年度予算分の3600万円については、現在、工事発注に向け事務を進めている。グリーンティ和東改修事業については、現在、工事を進めている。工期は3月15日までとなっている。繰越事業である野生鳥獣被害総合対策事業については、

野生鳥獣個体数調査業務を委託して檻の設置と発信器の2台を購入した。

建設事業課からは、橋りよう長寿命化修繕事業では、石寺地内の3つの橋の調査を行う。町道拡幅改良事業では、現在、町道山口線の工事を進めている。河川改修事業では、原山地内の河川改修測量設計委託について入札も終わり、調査に入る予定である。

この他、条例制定を予定している和東町景観条例(中間案)の概要について担当課長から説明がありました。

各委員からは、京都府の管理になるが、府道木津信楽線の道路のセンターラインが見えにくくなっていた。最近塗りかえられたが、事故が起こってからの

は遅い。もっと早い対応が必要である。南地内の農地に置かれているコンクリート破片の処分の件について、和東茶手採技術保存会が全国大会で優勝されたが、文化を守っていくために保存会への助成や補助の方向などの質問がありました。

午後からは、原山地内の町道山口線拡幅改良工事の現地調査を実施し、進捗状況や今後の工事内容等について説明を受けました。



町道山口線拡幅改良工事現地を調査(原山地内)

一部事務組合・広域連合議会報告

山城病院組合議会

11月8日、第2回組合議会が開催された。最初に河井管理者より、4月よりこうのとりタクシーの運転を開始、6月に体外式衝撃波結石破砕用装置を更新、8月より救急担当医を新たに1名配置し救急医療体制を強化した。10月からコンビニ「グリーンリーブスモール」をオープン等の報告があった。

29年度病院事業会計決算認定は、給与費が増加したことなどから約9400万円の支出超過となったものの、損失額は前年度比で約2900万円改善された。介護老人保健施設事業会計決算認定は、開設以来最高の入所者数を確保したことなどから昨年度に引き続き黒字決算となった。両事業とも全員賛成で認定された。

また京都山城総合医療センター使用料等徴収条例の一部改正、介護老人保健施設やましろ使用料・手数料等徴収条例の一部改正、公平委員、福井康裕氏(木津川市)の再任について、いずれも全員賛成で可決した。

30年度介護老人保健施設事業会計補正予算として438万円の増額補正は全員賛成で可決された。

相楽東部広域連合議会

12月14日、南山城村議場で第3回定例会が開催された。一般質問に各町村1名、3名の議員が質問された。続いて29年度一般会計決算認定を賛成多数で可決、30年度一般会計補正予算、クリーンセンターの緊急修繕工事費用及び和東町給食センターの空調設備施設設計業務の委託費用11172万円が提示され、全員賛成で可決された。

議員
研修

テーマ

南箕輪村議会活性化の取組み・原村地域福祉センターの運営

昨年11月14日～15日に
かけ長野県南箕輪村、長
野県原村を訪れ、議会活
性化の取組みや地域福祉
センターの運営等につい
て研修を行いました。

南箕輪村は中央アル
プスのふもとに広がる豊
かな自然や田園風景に囲
まれた人口増加数が県内
一位の若い活気あふれる
村である。交通面は東京
から約一時間30分、名古
屋から約一時間20分の距
離にあり、アクセスがい
い村です。また保育園か
ら小・中・高校・短大・
大学・大学院まである村
として教育機関が充実し
ています。



長野県南箕輪村議会を視察

平成の大合併が進めら
れる中、議会は村が自立
の道を選択して以降、議
員定数の削減や議員報酬
の削減に取り組むととも
に開かれたわかりやすい
議会とするため、平成23
年6月、議会活性化検討
特別委員会を設置し、議
会改革に取り組みまし
た。議会基本条例では、

議員及び議会の責務や活
動原則、村民や村長と議
会との関係などを明らか
にし、村民の負託にこた
え、村民の福祉の向上と
村政の発展にむけて行動
することがうたわれてい
るとの説明を受けました。

原村は、八ヶ岳山麓
に広がる緑豊かな高原野
菜の産地として発展し、
「皆が元気に安心して暮
らせる村」を目指してい
る。また、福祉医療の村
づくりをすすめる、高齢者
の医療費無料化など福祉
が充実した村である。

平成6年に国のゴール
ドプランを受け、デイ
サービスセンターや在宅
介護支援センター、診療
所を併設した地域福祉セ
ンターを建設された。ま
た、行政機構の見直しを

行い、保険・福祉・医療
部門を統合した上で社会
福祉協議会の事務所も同
センター内に設置してい
る。

複合施設開設により
個々の部門ごとに把握し
ていた関係情報を共有す
ることができ、よ

りきめ細かなサー
ビスを提供してい
る。

また、子育て支
援対策の充実を図
るため、病児保
育・病後児保育を
実施している。子
育てフォローアッ
プ事業として子育
て相談員の配置や
子育てサロンの開
設など充実した福
祉行政が行われて
いる等の説明があ
りました。

日本全体が少子高齢
化、人口減少が進む中、
どちらの村も人口増が定
着し、若い活気あふれる
村づくりに取組まれてい
る姿勢を研修することが
できました。



長野県原村地域福祉センターを視察

まちの
“元気”を
訪ねて

“満点で優勝!次は大会初の連覇を狙う” ～和東茶手揉技術保存会～

今回は、平成30年11月14日に福岡県八女市で開催された『第26回全国手もみ茶振興大会福岡大会』で見事優勝されました『和東茶手揉技術保存会』の皆さんにお話を伺いました。

Q 優勝された勝因は?

A まずメンバーが予想から勝ち抜いた3人でチームワークが良かったこと。また、今回の芽(茶葉)は乾きにくく他チームが通常の時間配分で手揉みするなか、自分達は手の感覚だけを頼りに揉んだことが良かったと思います。



荒木栄一さん 細井堅太さん 畑康久さん 大西巧さん

Q 現在の会員数は?

A 平成11年に4人で結成し、現在は36人になっています。

Q 普段どのような活動をされていますか?

A 春には新茶での手揉み実習。秋には茶源郷まつりや宇治茶まつりで手揉みの実演やお客さまに手揉み体験をしていただいています。他にも手揉み技術競技大会に向けた練習に励んでいます。

Q 手揉み技術を継承していく上で何が一番気をつけていますか?

A 手揉みを通じて、茶文化の普及と宣伝に努めることを一番に考えています。過去には和東小学校や和東中学校でも手摘みや手揉みの技術を指導したこともあり、その時の教え子が現在会員になってくれています。

Q 今後の目標は?

A 誰もしたことがない大会2連覇ですね。平成最後の大会で優勝できたので、新元号になって第1号の優勝を目指します。

Q 新しい会員募集へのPRをどうぞ。

A 機械を使わず自分達の手だけで製茶するの喜びや達成感は大きく、良いお茶が出来た時の感覚は機械製茶にも生かせるので、興味ややる気がある人に入会してもらいたい。

(取材 村山 一彦)

編集後記

本年は平成時代最後の年となり、新時代の幕開けも近づいております。我が国においても内政、外交とも多くの課題を抱え、変転の年となることが予想されます。

さて、わが町では現在グリーンティ和東が改修中です。これは附近一帯を「お茶の駅」として整備する構想で、犬打峠トンネル化を見据えた地域振興の核となるものです。

現在、本町のような中山間地が着目され、観光や農泊などで訪れる人も増加しています。先の大戦中も、多くの疎開者を迎え入れた経過があります。今後、想定される南海トラフ地震、都市部において予想される種々のテロや争いによる混乱に備え、いつでも移住可能な地域となるよう、道路や住環境の整備、またエネルギーや食糧を自給できる体制づくりも必要ではないでしょうか。今後の町づくりの一つのモチベーションとして取り入れてほしいものです。

(藤井 清隆)

広報編集委員会

委員長	竹内 きみ代
副委員長	吉田 哲也
委員	藤井 清隆
委員	村山 一彦
委員	小西 啓

第1回定例会は、3月5日開催予定。傍聴にお越しく下さい。